

第Ⅲ部 調査結果の詳細

【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 数値間の比較で大小関係を示す場合は、個々の選択肢の比率の差を取り、「…ポイント増（減）」等という表現を使っている。
- (注7) 男女の18～19歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がなく、分析で触れていない場合がある。
- (注8) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。

第1章 暮らし全般について【問1～問5】

1 生活総合満足度【問1】

【全体の状況】

現在の生活全般についてどの程度満足しているか尋ねたところ、「たいへん満足している」(5.9%)と「どちらかといえば満足している」(49.7%)を合わせた《満足している》は55.7%であった。

一方、「たいへん不満である」(3.8%)と「どちらかといえば不満である」(13.7%)を合わせた《不満である》は17.5%で、《満足している》が《不満である》を38.2ポイント上回った。

また、「どちらともいえない」は、22.1%であった。(図表1-1-1)

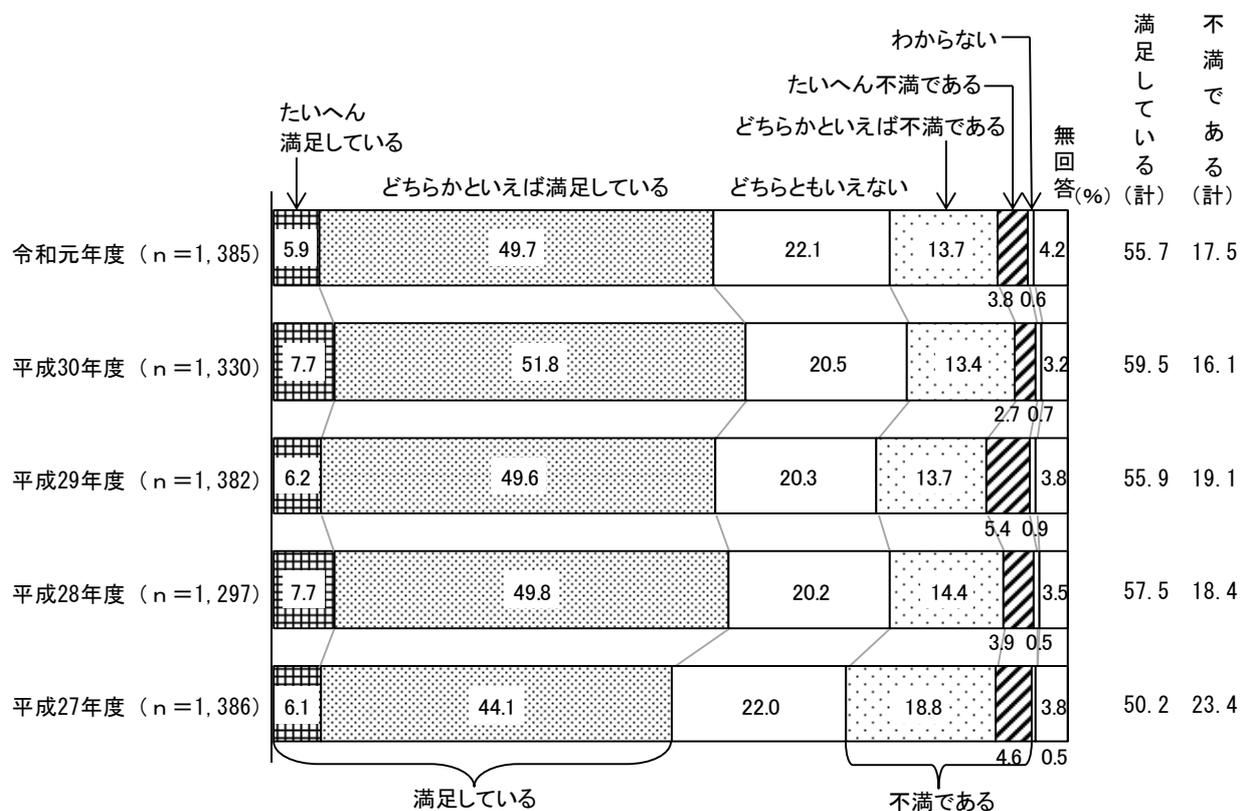
【過去との比較】

過去の調査と比較すると、《満足している》では、平成30年度は平成29年度と比べて3.6ポイント増(55.9%→59.5%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて3.8ポイント減(59.5%→55.7%)となった。

一方、《不満である》では、平成30年度は平成29年度と比べて3.0ポイント減(19.1%→16.1%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて1.4ポイント増(16.1%→17.5%)となった。

(図表1-1-1)

図表1-1-1 生活総合満足度—過去との比較

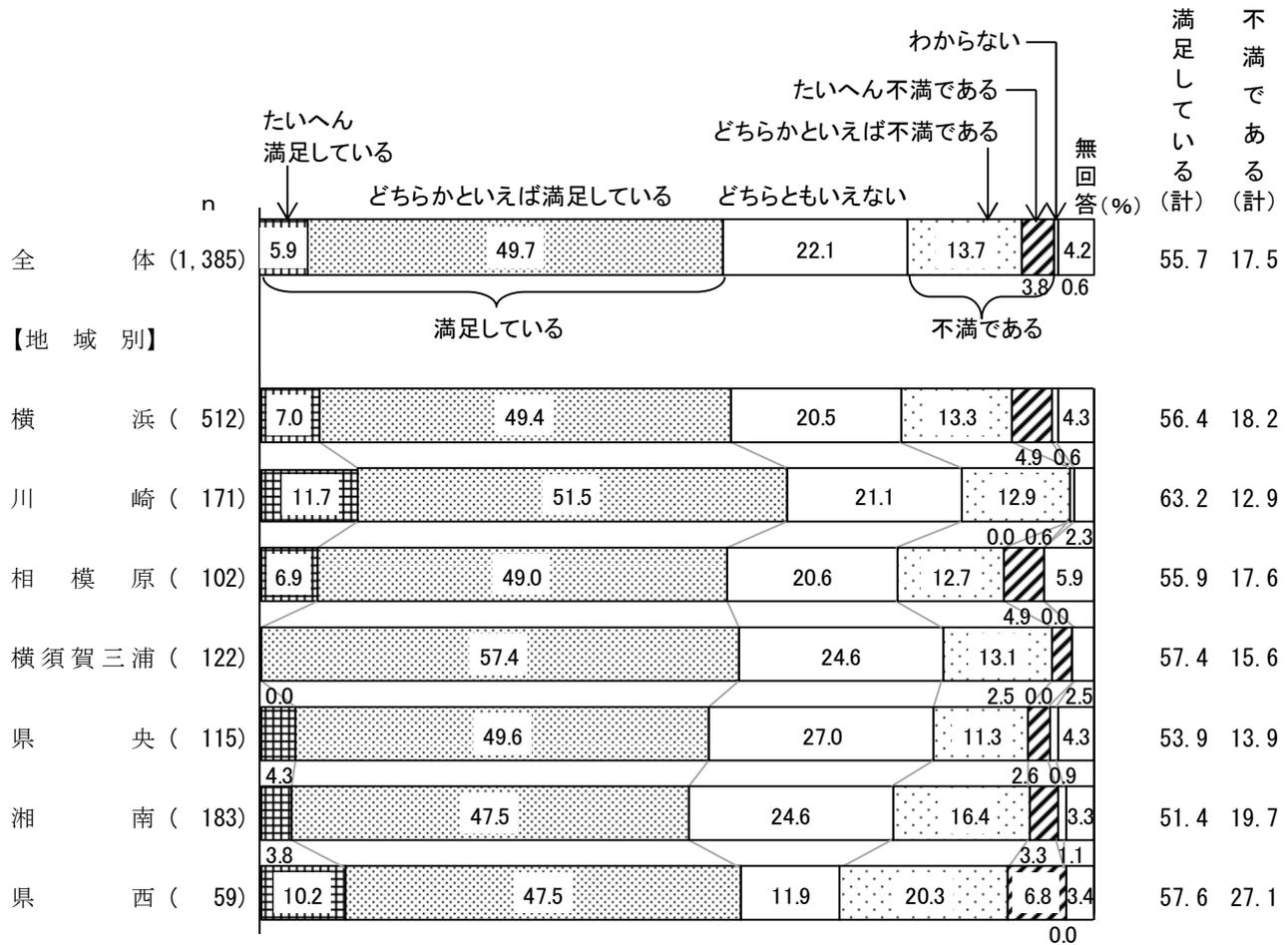


【地域別の状況】

地域別にみると、「満足している」は、川崎が63.2%で最も多く、県西(57.6%)と横須賀三浦(57.4%)が続いた。

一方、「不満である」は、県西が27.1%で最も多かった。(図表1-1-2)

図表1-1-2 生活総合満足度—地域別

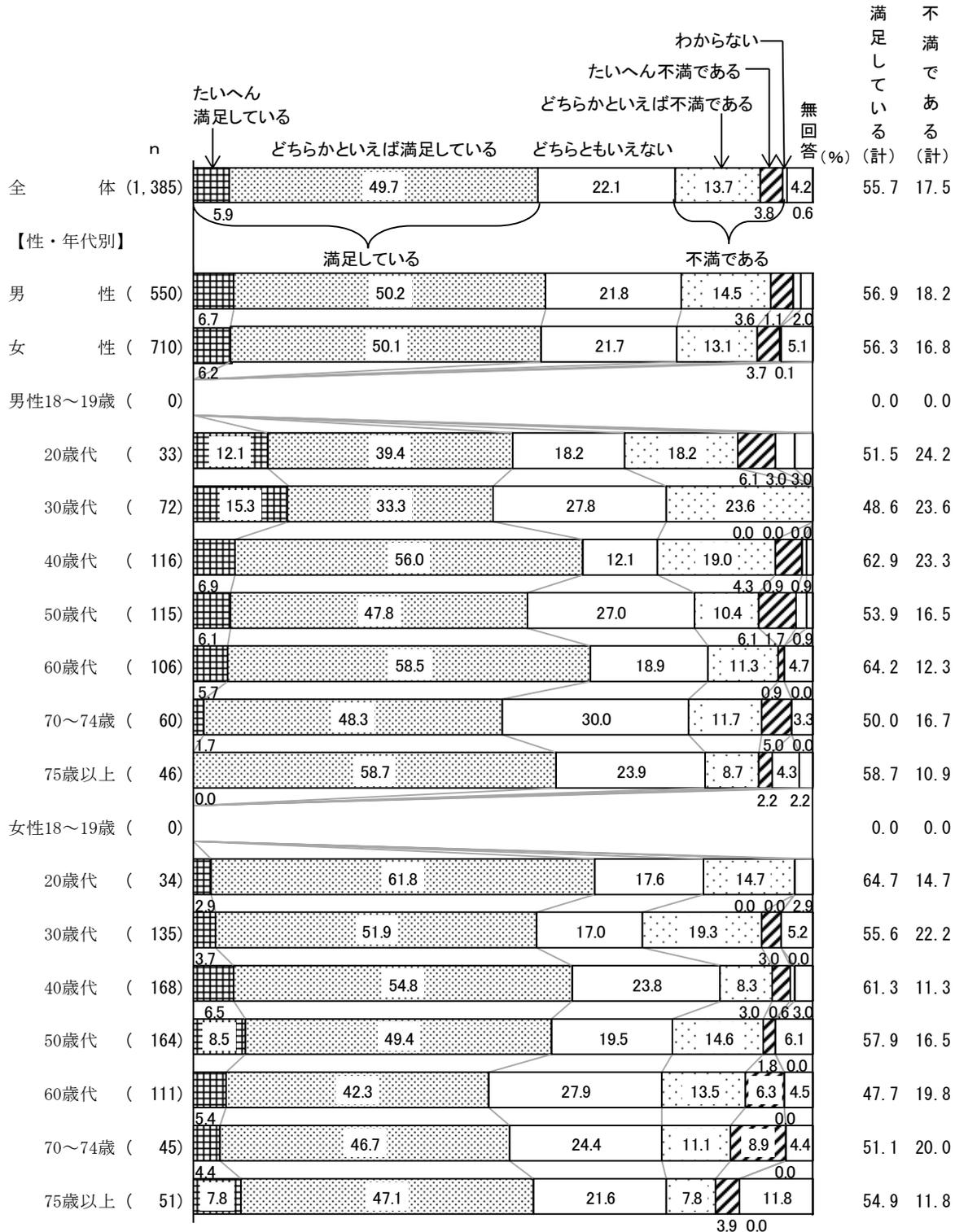


【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《満足している》は、女性の20歳代が64.7%で最も多く、次いで男性の60歳代が64.2%であった。

一方、《不満である》は、男性の20歳代が24.2%で最も多かった。(図表1-1-3)

図表1-1-3 生活総合満足度—性・年代別



2 暮らし向きの変化【問2～問2-1】

【全体の状況】

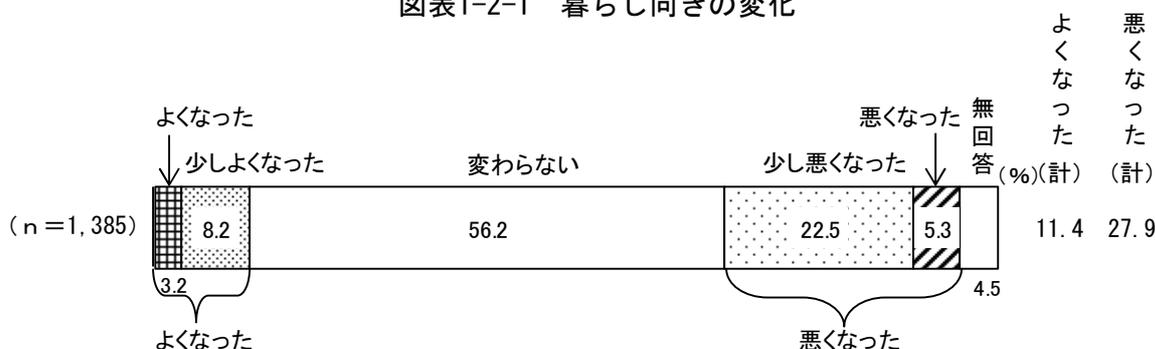
昨年と比較した現在の暮らし向きの変化について尋ねたところ、「よくなった」(3.2%)と「少しよくなった」(8.2%)を合わせた《よくなった》は11.4%であった。

一方、「悪くなった」(5.3%)と「少し悪くなった」(22.5%)を合わせた《悪くなった》は27.9%で、《悪くなった》が《よくなった》を16.5ポイント上回った。

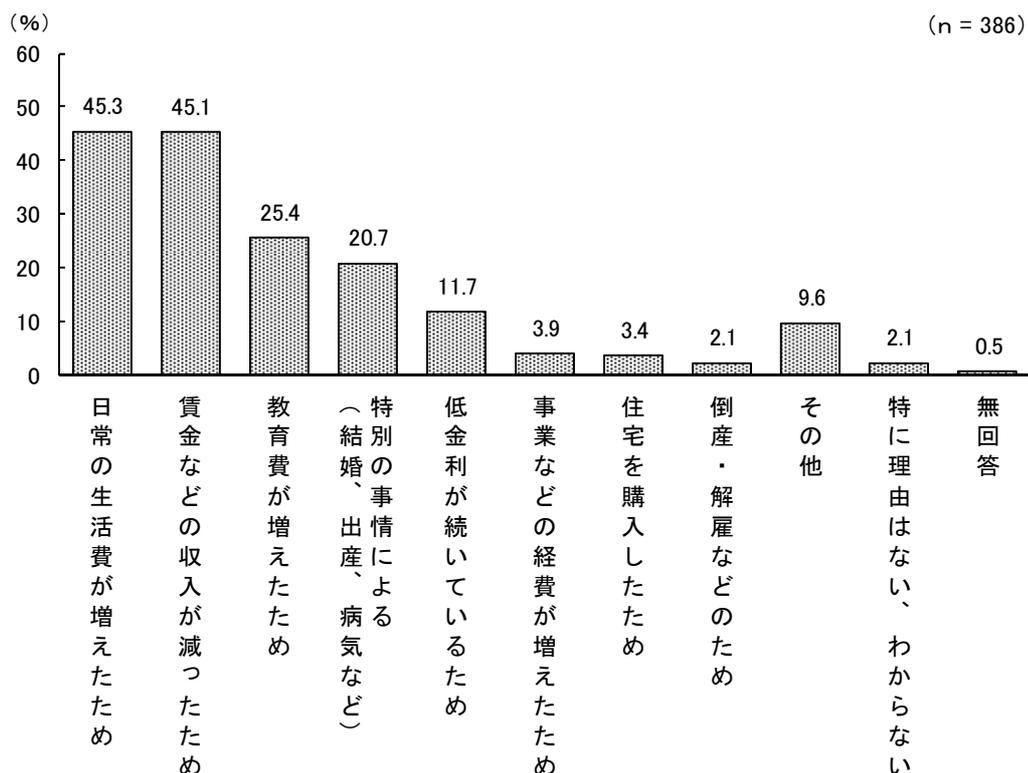
また、「変わらない」は、56.2%であった。(図表1-2-1)

暮らし向きが《悪くなった》と回答した386人に、その理由を複数回答で尋ねたところ、「日常生活費が増えたため」が45.3%で最も多く、次いで「賃金などの収入が減ったため」が45.1%であった。(図表1-2-2)

図表1-2-1 暮らし向きの変化



図表1-2-2 暮らし向きが悪くなった理由(複数回答)

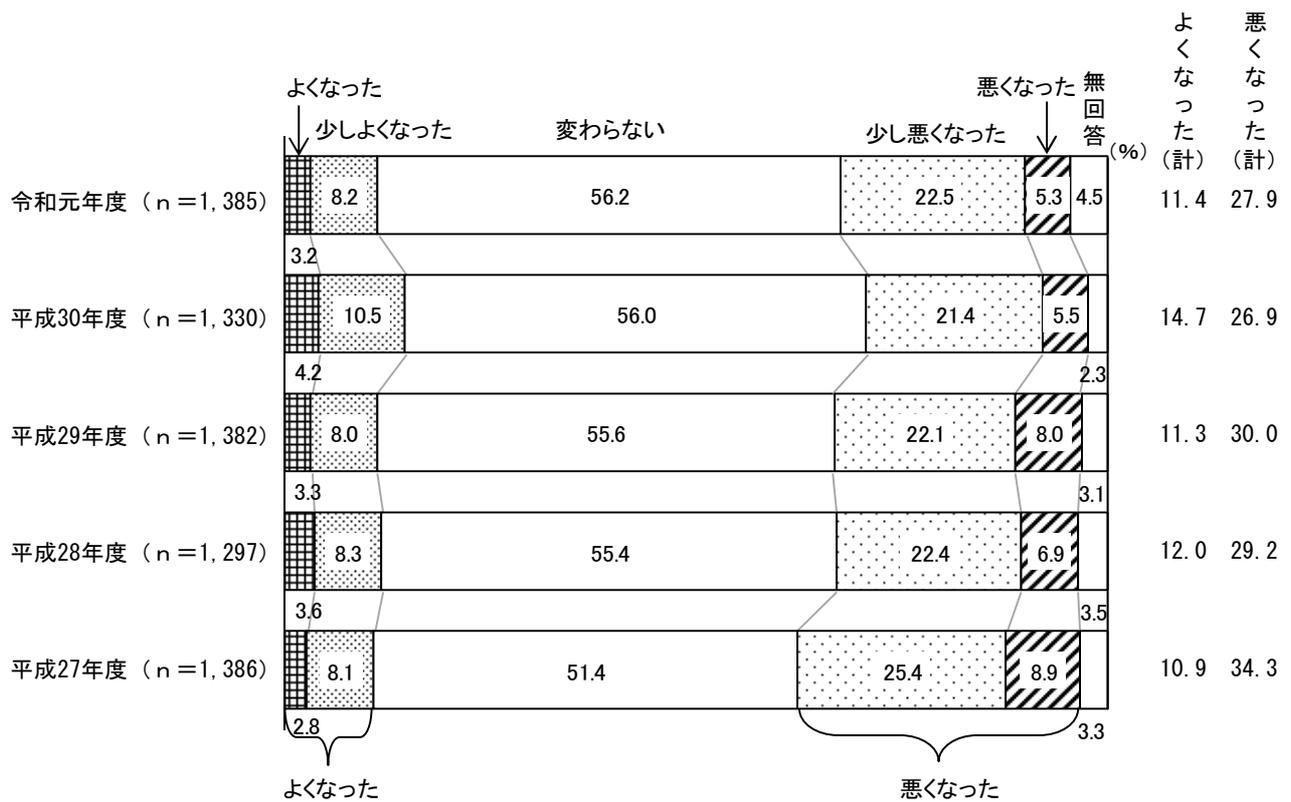


【過去との比較】

暮らし向きの変化を過去の調査と比較すると、「よくなった」は、平成30年度は平成29年度と比べて3.4ポイント増（11.3%→14.7%）であったが、令和元年度は平成30年度と比べて3.3ポイント減（14.7%→11.4%）となった。

一方、「悪くなった」は、平成30年度は平成29年度と比べて3.1ポイント減（30.0%→26.9%）であったが、令和元年度は平成30年度と比べて1.0ポイント増（26.9%→27.9%）となった。（図表1-2-3）

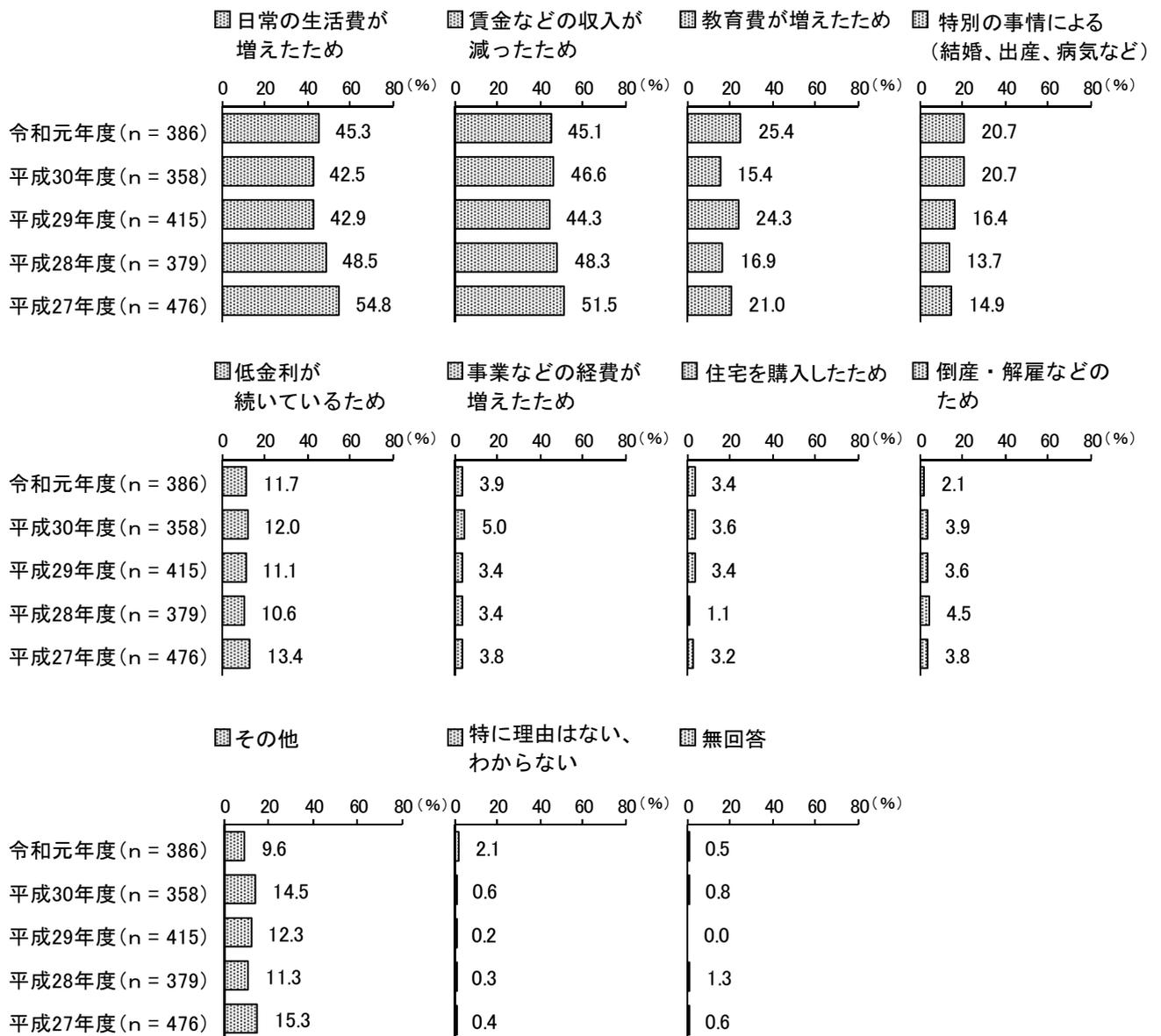
図表1-2-3 暮らし向きの変化—過去との比較



暮らし向きが《悪くなった》理由を過去の調査と比較すると、「教育費が増えたため」は、平成30年度と比べて10.0ポイント増(15.4%→25.4%)となり、最も増加した項目であった。

一方、「倒産・解雇などのため」は、平成30年度と比べて1.8ポイント減(3.9%→2.1%)となり、最も減少した項目であった。(図表1-2-4)

図表1-2-4 暮らし向きが悪くなった理由（複数回答）－過去との比較



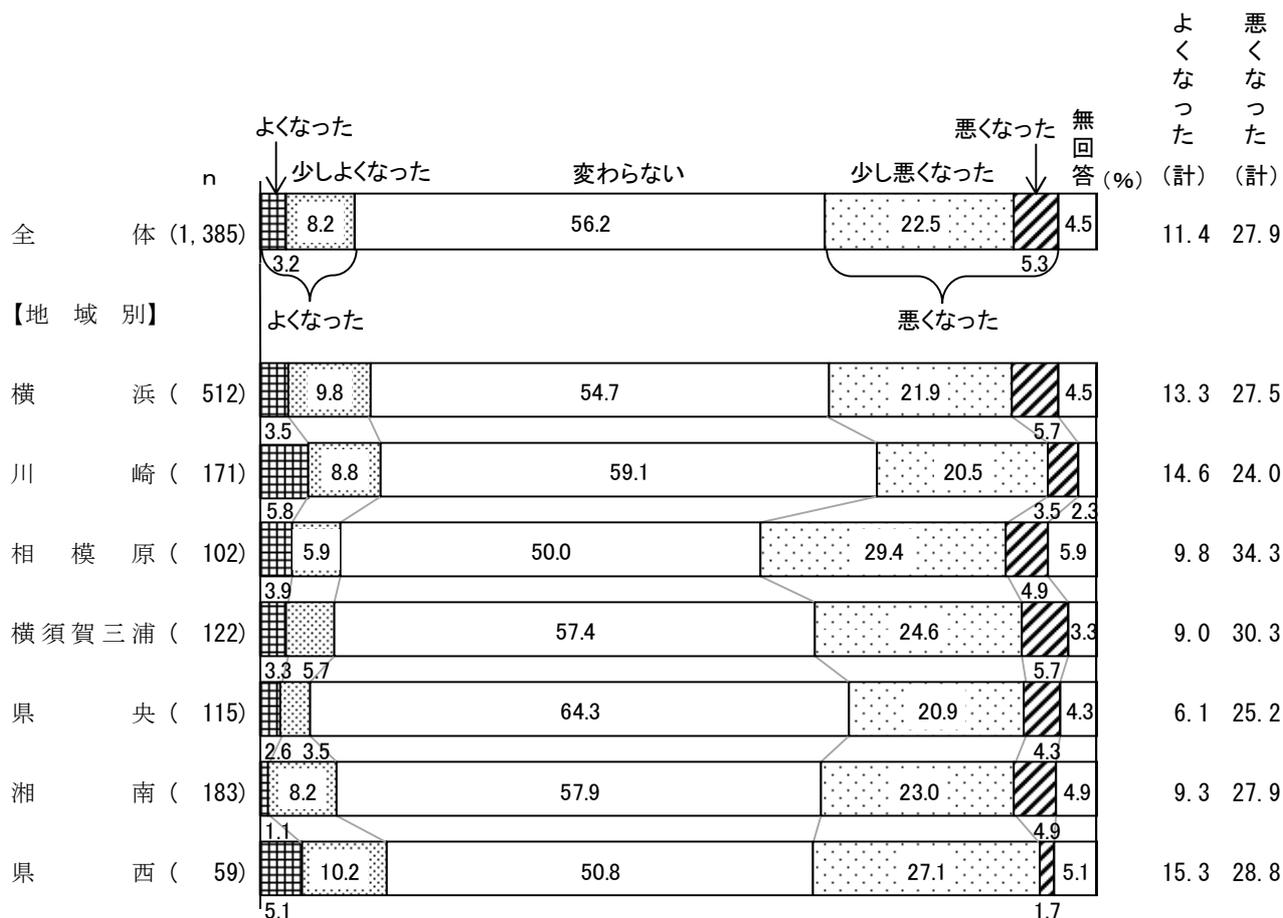
【地域別の状況】

暮らし向きの変化を地域別にみると、《よくなった》は、県西が15.3%で最も多く、川崎（14.6%）と横浜（13.3%）が1割台で続いた。

一方、《悪くなった》は、相模原（34.3%）と横須賀三浦（30.3%）がともに3割を超えた。

（図表1-2-5）

図表1-2-5 暮らし向きの変化—地域別



暮らし向きが《悪くなった》理由を地域別にみると、「日常の生活費が増えたため」は、川崎が58.5%で最も多かった。また、「賃金などの収入が減ったため」は、横須賀三浦が56.8%で最も多かった。

(図表1-2-6)

図表1-2-6 暮らし向きが悪くなった理由（複数回答）－地域別

		(%)										
	n	日常の生活費が増えたため	賃金などの収入が減ったため	教育費が増えたため	産、特別の事情による（結婚、出産、病気など）	低金利が続いているため	事業などの経費が増えたため	住宅を購入したため	倒産・解雇などのため	その他	特に理由はない、わからない	無回答
全 体	386	45.3	45.1	25.4	20.7	11.7	3.9	3.4	2.1	9.6	2.1	0.5
【地 域 別】												
横 浜	141	41.8	46.1	28.4	20.6	9.9	5.0	2.8	2.8	6.4	1.4	1.4
川 崎	41	58.5	41.5	41.5	14.6	14.6	-	7.3	-	12.2	-	-
相 模 原	35	48.6	45.7	20.0	20.0	11.4	-	2.9	-	5.7	8.6	-
横 須 賀 三 浦	37	45.9	56.8	24.3	35.1	16.2	8.1	2.7	2.7	10.8	2.7	-
県 央	29	41.4	27.6	34.5	17.2	-	-	6.9	-	13.8	-	-
湘 南	51	41.2	45.1	11.8	17.6	15.7	5.9	3.9	2.0	15.7	3.9	-
県 西	17	52.9	47.1	23.5	11.8	5.9	-	-	-	11.8	-	-

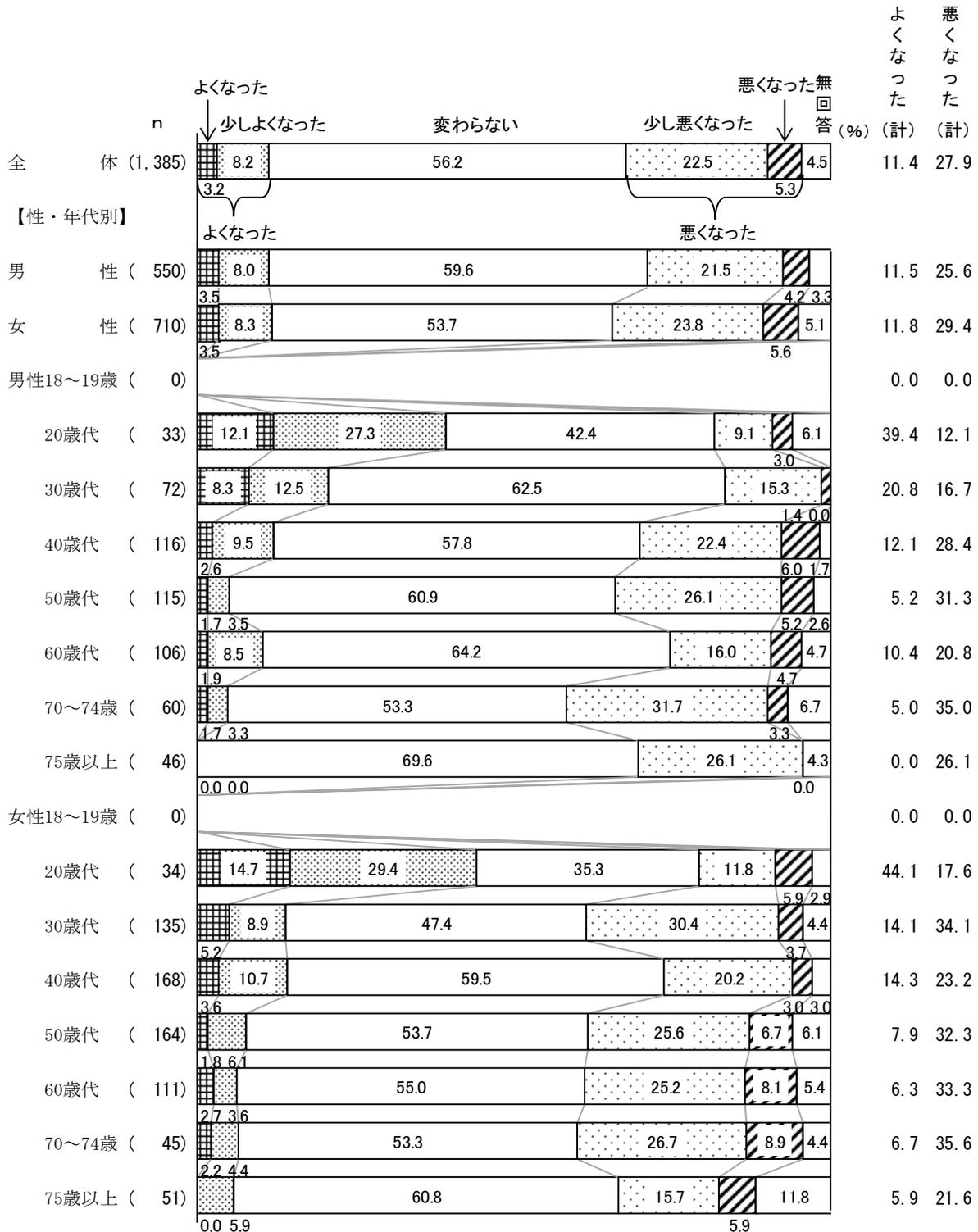
【性・年代別の状況】

暮らし向きの変化を性・年代別にみると、《よくなった》は、女性の20歳代が44.1%で最も多く、次いで男性の20歳代が39.4%であった。

一方、《悪くなった》は、男女ともに70～74歳（男性35.0%、女性35.6%）が最も多かった。

(図表1-2-7)

図表1-2-7 暮らし向きの変化－性・年代別



暮らし向きが《悪くなった》理由を性別にみると、「日常の生活費が増えたため」は、女性（50.2%）が男性（37.6%）を12.6ポイント上回った。（図表1-2-8）

図表1-2-8 暮らし向きが悪くなった理由（複数回答）－性・年代別

		(%)										
	n	日常の生活費が増えたため	賃金などの収入が減ったため	教育費が増えたため	産、特別の事情による（結婚、出産、病気など）	低金利が続いているため	事業などの経費が増えたため	住宅を購入したため	倒産・解雇などのため	その他	特に理由はない、わからない	無回答
全体	386	45.3	45.1	25.4	20.7	11.7	3.9	3.4	2.1	9.6	2.1	0.5
【性・年代別】												
男性	141	37.6	47.5	26.2	14.9	12.8	5.0	3.5	1.4	10.6	5.0	-
女性	209	50.2	44.0	26.3	23.9	10.0	2.9	3.8	1.9	9.1	0.5	1.0
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	4	50.0	25.0	25.0	50.0	25.0	-	25.0	-	-	-	-
30歳代	12	66.7	25.0	58.3	16.7	-	-	8.3	-	16.7	-	-
40歳代	33	33.3	33.3	54.5	6.1	9.1	-	6.1	3.0	12.1	9.1	-
50歳代	36	33.3	55.6	25.0	16.7	5.6	2.8	-	-	13.9	-	-
60歳代	22	22.7	81.8	-	9.1	27.3	27.3	4.5	-	9.1	-	-
70～74歳	21	38.1	61.9	4.8	19.0	14.3	-	-	4.8	4.8	4.8	-
75歳以上	12	58.3	-	-	16.7	25.0	-	-	-	8.3	25.0	-
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	6	100.0	16.7	50.0	66.7	16.7	-	-	-	-	-	-
30歳代	46	60.9	28.3	37.0	26.1	6.5	4.3	8.7	-	17.4	-	-
40歳代	39	53.8	38.5	51.3	15.4	7.7	-	2.6	5.1	5.1	-	-
50歳代	53	35.8	62.3	26.4	18.9	11.3	3.8	3.8	3.8	9.4	1.9	-
60歳代	37	54.1	54.1	2.7	29.7	10.8	-	2.7	-	2.7	-	-
70～74歳	16	50.0	50.0	-	25.0	18.8	12.5	-	-	6.3	-	-
75歳以上	11	27.3	18.2	-	27.3	9.1	-	-	-	18.2	-	9.1

3 今後の暮らし向きの見通し【問3】

【全体の状況】

今後の暮らし向きの見通しを尋ねたところ、「明るい」(4.3%)と「やや明るい」(10.0%)を合わせた《明るい》は14.3%であった。

一方、「暗い」(8.5%)と「やや暗い」(29.0%)を合わせた《暗い》は37.5%となり、《暗い》が《明るい》を23.2ポイント上回った。

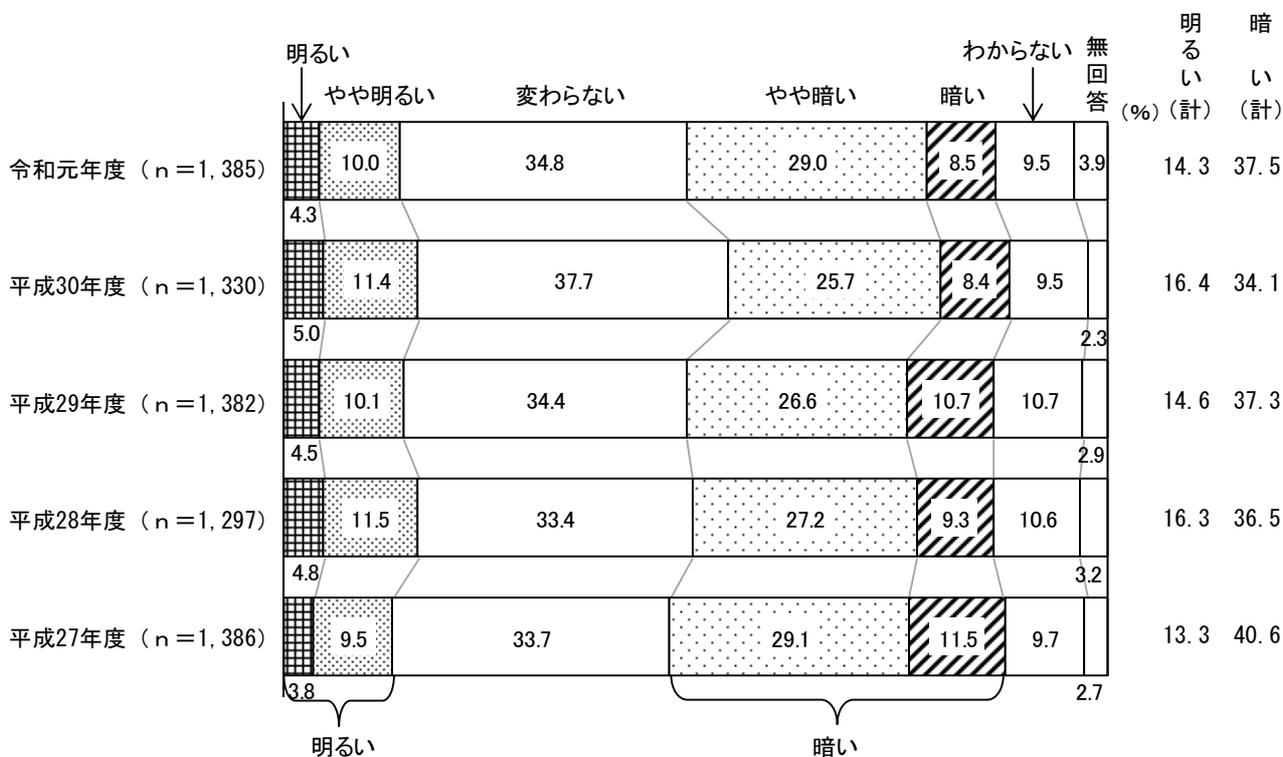
また、「変わらない」は、34.8%であった。(図表1-3-1)

【過去との比較】

過去の調査と比較すると、《明るい》は、平成30年度は平成29年度と比べて1.8ポイント増(14.6%→16.4%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて2.1ポイント減(16.4%→14.3%)となった。

一方、《暗い》は、平成30年度は平成29年度と比べて3.2ポイント減(37.3%→34.1%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて3.4ポイント増(34.1%→37.5%)となった。(図表1-3-1)

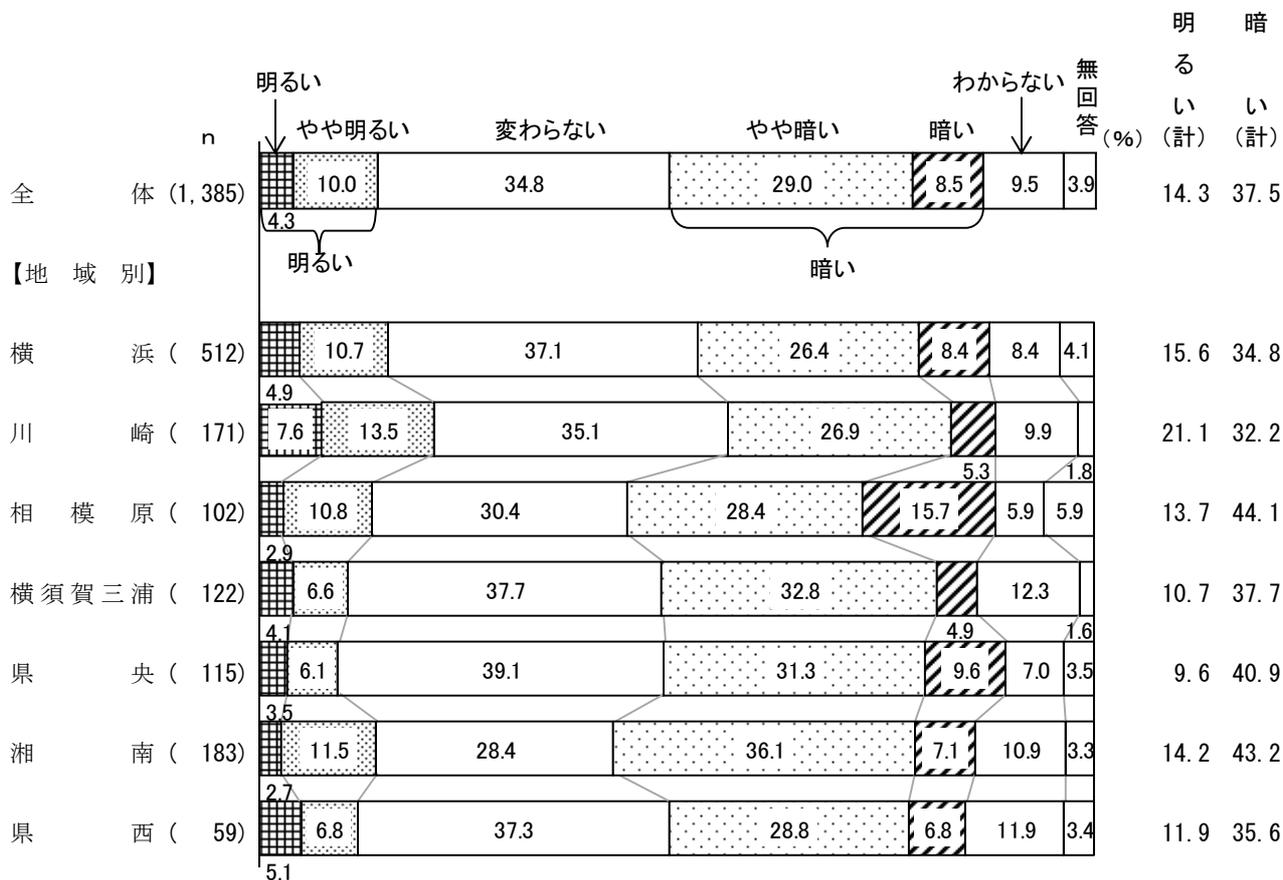
図表1-3-1 今後の暮らし向きの見通し—過去との比較



【地域別の状況】

地域別にみると、《明るい》は、川崎が21.1%で最も多く、次いで横浜が15.6%であった。一方、《暗い》は、相模原が44.1%で最も多く、次いで湘南が43.2%であった。（図表1-3-2）

図表1-3-2 今後の暮らし向きの見通し—地域別



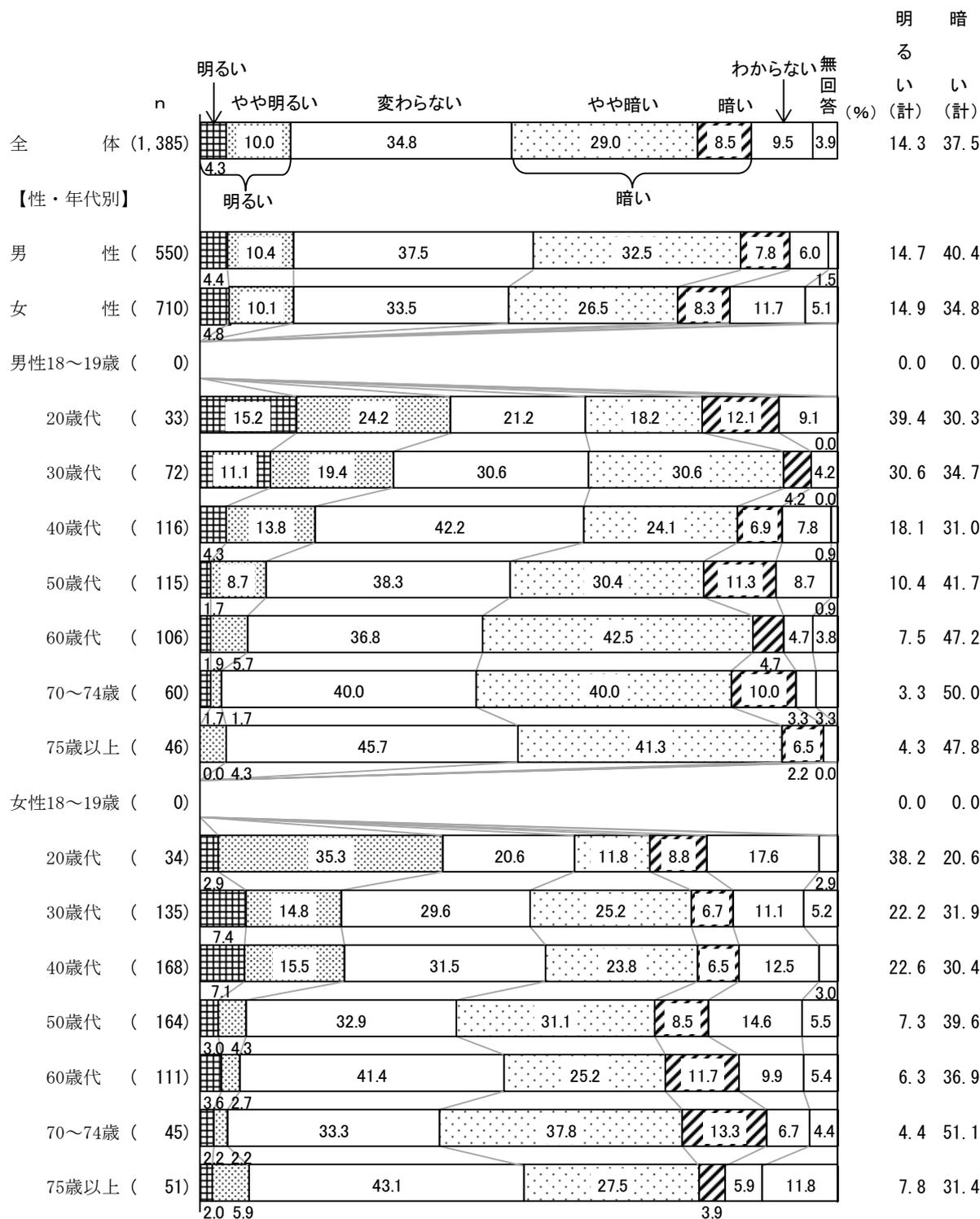
【性・年代別の状況】

性別にみると、《暗い》は、男性（40.4%）が女性（34.8%）を5.6ポイント上回った。

性・年代別にみると、《明るい》は、男女ともに20歳代（男性39.4%、女性38.2%）が約4割で最も多かった。

一方、《暗い》は、男女ともに70～74歳（男性50.0%、女性51.1%）が最も多かった。（図表1-3-3）

図表1-3-3 今後の暮らし向きの見通し－性・年代別



4 地域の住みよさ【問4】

【全体の状況】

現在住んでいる地域の住みよさについて尋ねたところ、「たいへん住みよい」(13.1%)と「どちらかといえば住みよい」(56.7%)を合わせた《住みよい》は69.7%であった。

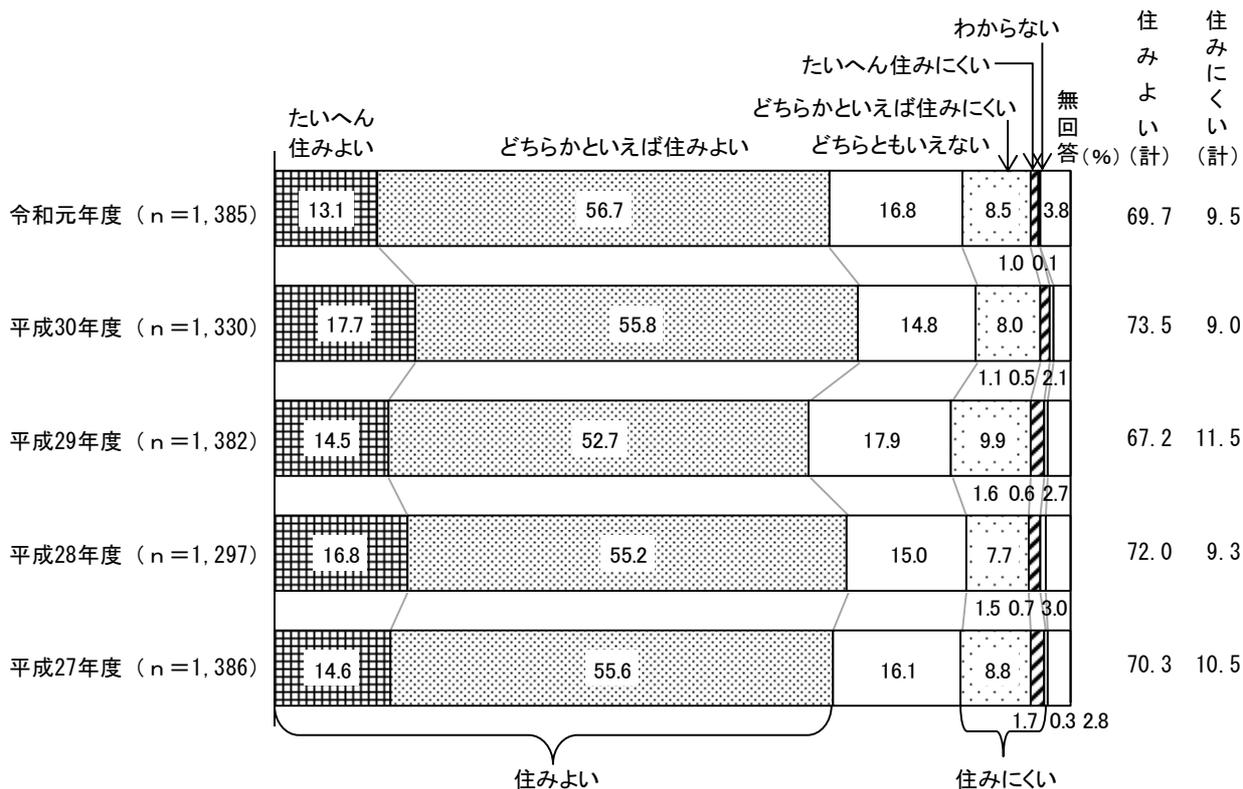
一方、「たいへん住みにくい」(1.0%)と「どちらかといえば住みにくい」(8.5%)を合わせた《住みにくい》は9.5%で、《住みよい》が《住みにくい》を60.2ポイント上回った。(図表1-4-1)

【過去との比較】

過去の調査と比較すると、《住みよい》は、平成30年度は平成29年度と比べて6.3ポイント増(67.2%→73.5%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて3.8ポイント減(73.5%→69.7%)となった。

一方、《住みにくい》は、平成30年度は平成29年度と比べて2.5ポイント減(11.5%→9.0%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて0.5ポイント増(9.0%→9.5%)となった。(図表1-4-1)

図表1-4-1 地域の住みよさー過去との比較

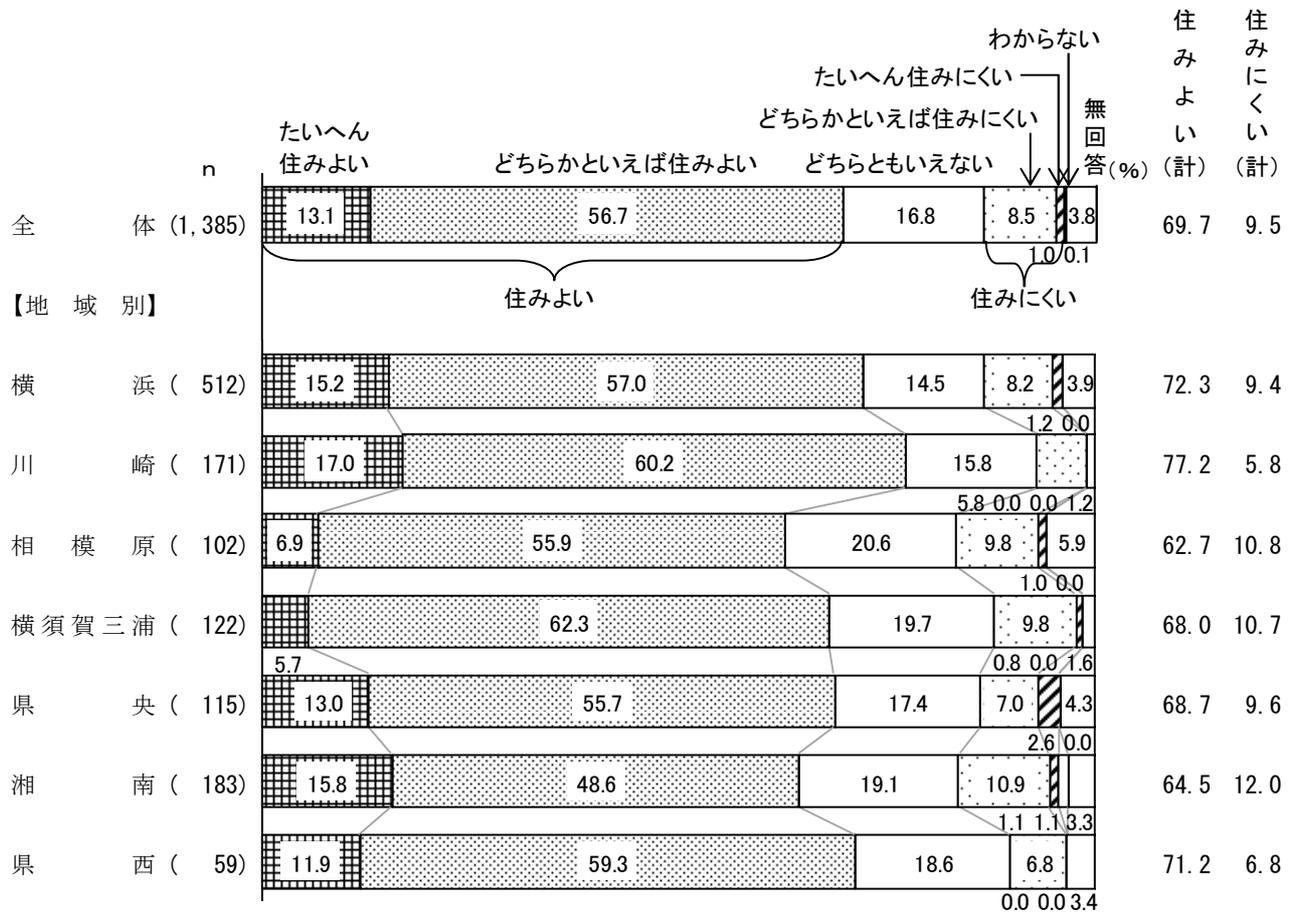


【地域別の状況】

地域別にみると、《住みよい》は、川崎（77.2%）、横浜（72.3%）、県西（71.2%）がそれぞれ7割を超えた。

一方、《住みにくい》は、湘南が12.0%で最も多かった。（図表1-4-2）

図表1-4-2 地域の住みよさー地域別

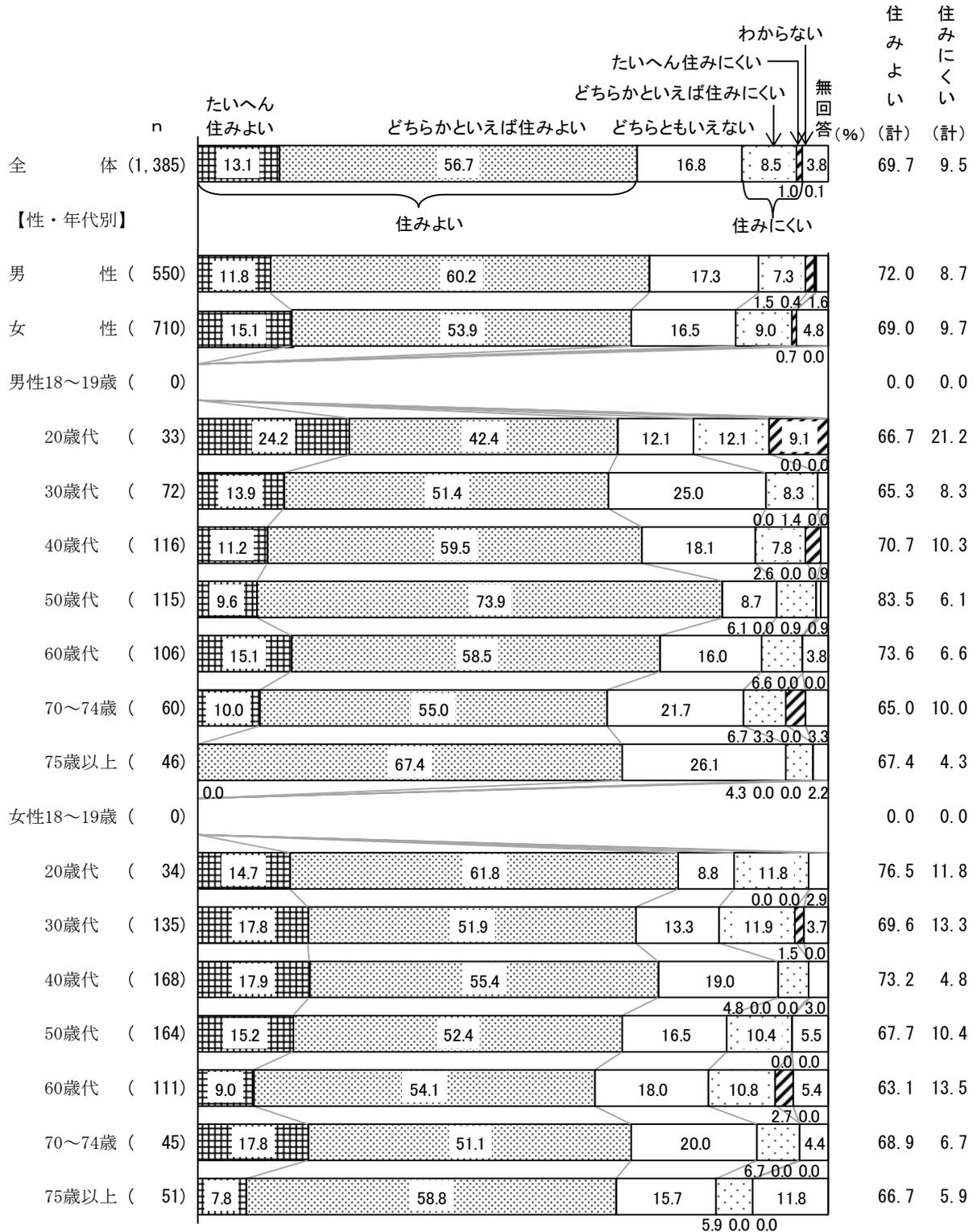


【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《住みよい》は、男性の50歳代が83.5%で最も多く、次いで女性の20歳代が76.5%であった。

一方、《住みにくい》は、男性の20歳代が21.2%で最も多かった。(図表1-4-3)

図表1-4-3 地域の住みよさー性・年代別



5 定住意向【問5】

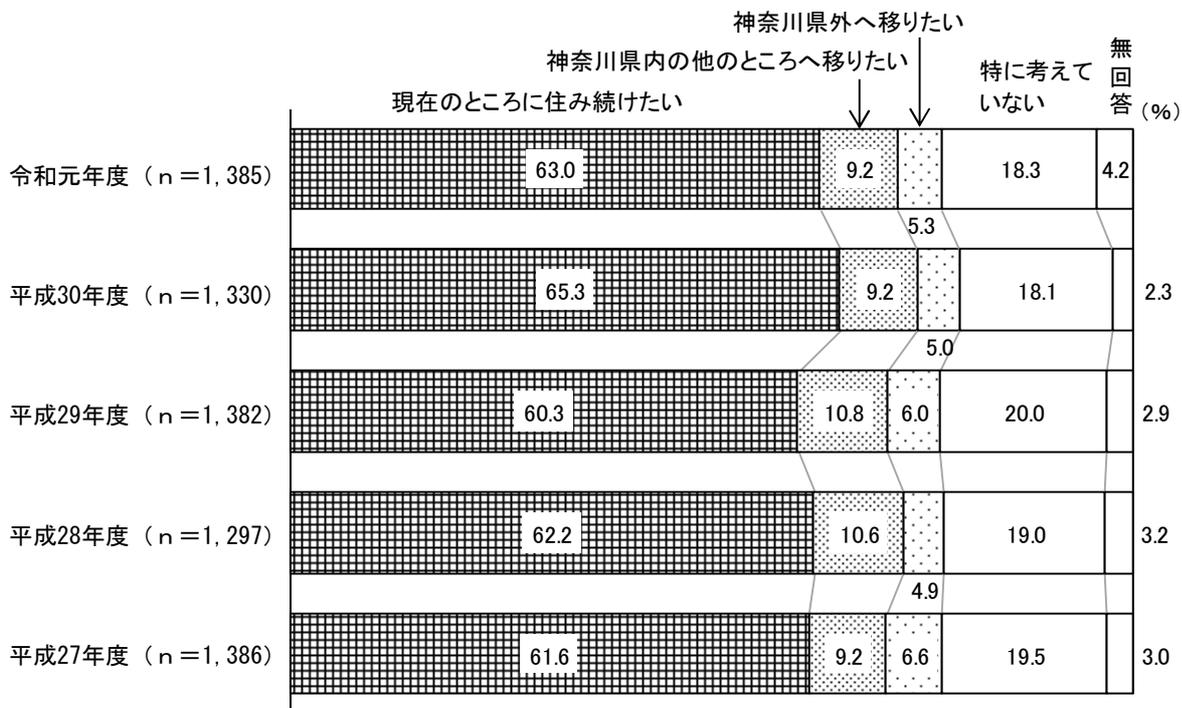
【全体の状況】

今後も現在のところに住みたいか尋ねたところ、「現在のところに住みたい」が63.0%で最も多かった。また、「神奈川県外へ移りたい」は、5.3%であった。(図表1-5-1)

【過去との比較】

過去の調査と比較すると、「現在のところに住みたい」は、平成30年度は平成29年度と比べて5.0ポイント増(60.3%→65.3%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて2.3ポイント減(65.3%→63.0%)となった。(図表1-5-1)

図表1-5-1 定住意向－過去との比較

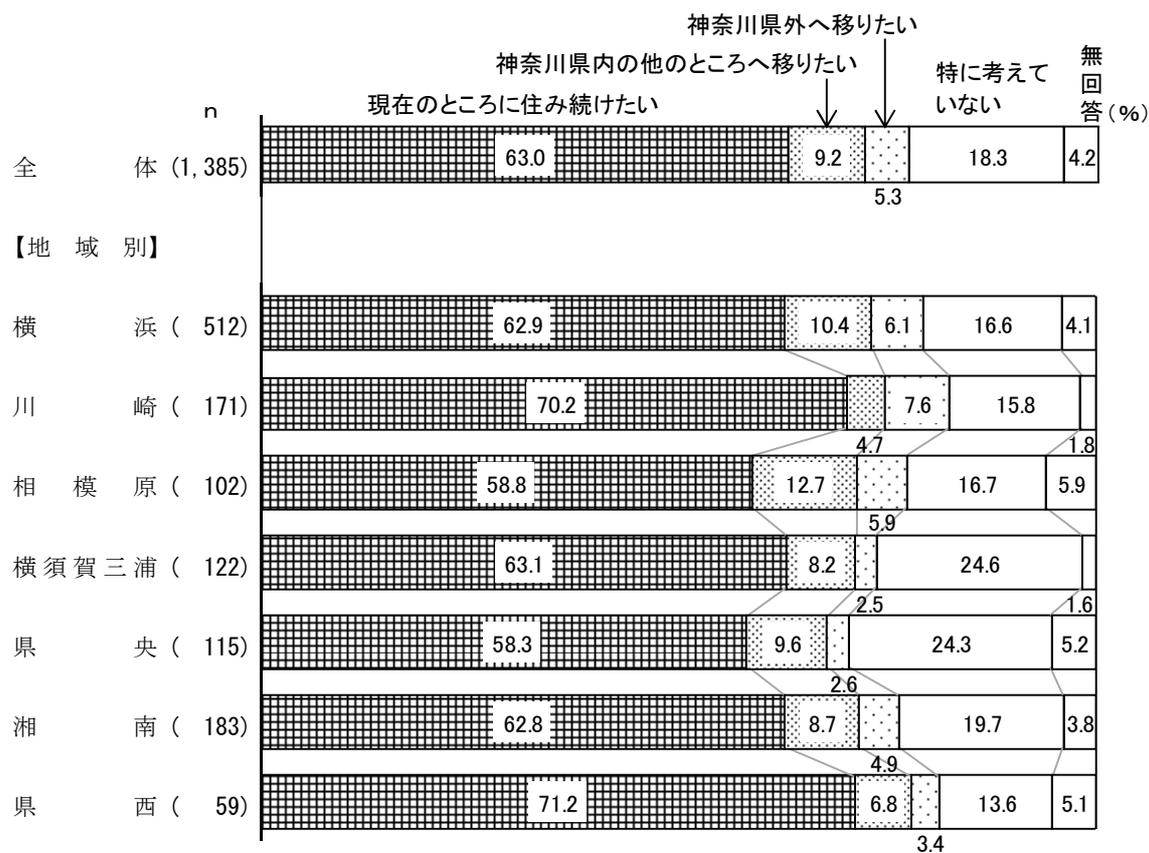


【地域別の状況】

地域別にみると、「現在のところに住み続けたい」は、県西が71.2%で最も多く、次いで川崎が70.2%であった。

一方、「神奈川県内の他のところへ移りたい」は、相模原が12.7%で最も多く、次いで横浜が10.4%であった。(図表1-5-2)

図表1-5-2 定住意向—地域別



【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「現在のところに住み続けたい」は、男女ともに70～74歳（男性71.7%、女性73.3%）が最も多かった。

一方、「神奈川県内の他のところへ移りたい」は、男性の30歳代（18.1%）が最も多く、男性の20歳代（15.2%）・40歳代（12.9%）が続いた。（図表1-5-3）

図表1-5-3 定住意向－性・年代別

